



2014年10月18日発行

立野ダムによらない自然と生活を守る会 代表 中島康 熊本市西区島崎4丁目5-13

10・26大集会&パレード 仮排水路着工を阻止しよう！



立野ダム予定地 現地調査 2014.8.17

熊本が世界に誇る阿蘇の玄関口である立野峡谷に、高さ90mの立野ダムが建設されようとしています。立野ダムは、阿蘇の大自然を破壊します。また、立野ダムは白川流域に安全をもたらすどころか、危険をもたらします。ダムより河川改修を進めるべきです。

事業者である国土交通省は、立野ダムについての説明責任を全く果たさないまま、立野ダムの仮排水路工事に11月にも着工すると表明しています。仮排水路着工を阻止するために、大集会を開き、熊本市中心街をパレードします。詳しくは同封のチラシをご覧ください。

1人でも多くの方を連れてきてください。人類の遺産である阿蘇の大自然と白川の清流を未来に手渡すために、大集会を成功させましょう！

●立野ダム予定地 現地調査に200名参加！

8月17日の立野ダム予定地現地調査へのご参加、誠にありがとうございました。参加者は約200名で、これまでの現地見学会の中で最も多くの人たちが集まりました。

まず、旧立野小学校近くから立野ダム建設予定地を見学。ちょうどトロッコ列車も通りました。次に、黒川第1発電所まで立野溪谷を歩いておりました。立野峡谷の深さと自然のすばらしさを実感していただきました。

車で移動後、長陽大橋近くから立野ダム水没予定地を見学。ダムができれば、北向谷原始林をはじめとする貴重な自然が破壊されます。その後の、旧立野小学校運動場で行われた交流会（バーベキュー）も盛り上がりました。運動の輪が広がってきていることを実感しました。



現地調査交流会(旧立野小)2014.8.17

●立野ダムをめぐる動き 2014年7月～2014年10月

- 7月12日 7・12白川大水害2周年「ダムより河川改修を」出版記念集會に約100名参加
- 8月2日 ストップ立野ダム署名活動（熊本市下通りダイエー前）
- 8月4日 白川漁協組合長に西島武継氏
- 8月5日 立野ダム促進陳情の熊本市長に抗議。国交省、熊本県にも要請書提出。
- 8月10日 長野県の浅川ダム（建設中）を現地調査
- 8月11日 島根県の益田川ダムを現地調査
- 8月17日 立野ダム予定地現地調査に約200名参加
- 8月30日 ストップ立野ダム署名活動（熊本市下通りダイエー前）
- 9月15日 母親大会で白川改修現地視察
- 9月21日 「自然観察くまもと」立野ダム問題の学習会（旧立野小、現地見学）
- 9月23日 阿蘇が世界ジオパークに認定
- 9月27日 城西コミセンにて立野ダム問題学習会
- 10月14日 立野ダム事業に関する要望書を環境省九州地方環境事務所に提出



満席となった出版記念集會 2014.7.12



白川改修現地視察（龍田陳内4丁目）2014.9.15

●穴あきダムを現地調査しました

■浅川ダム（長野県）

8月10日、長野県の浅川ダム（建設中）を現地調査しました。ダム本体が8割方完成してました。ダムの高さは53mで、立野ダムの約半分ですが、驚くことに穴のサイズは高さ1.45m×幅1.3mが1つだけ。小学生の身長なみの高さで、恐ろしく小さい。おまけに、穴の上流側にはスクリーンがついています。流木などでふさがるのは間違いありません。

ダムの穴がふさがったら、ダムは洪水調節不能となり、洪水を貯め込むだけの状態になります。ダムが満水になれば、浅川ダム上部にある非常用放水吐き（1.8m×13mの穴が6つもあります）から洪水が一気に下流に流れ落ちます。ダム下流の洪水流量は、ゼロから最大に急上昇するわけです。

この浅川ダムは、田中康夫知事が「脱ダム宣言」で中止したのに、次の知事が復活させたもの。当時の議論で、「ダムの穴が詰まって洪水調節不能になる、危険なダムである」という論点はなかったのでしょうか。



長野県の浅川ダム（建設中）

■益田川ダム(島根県)

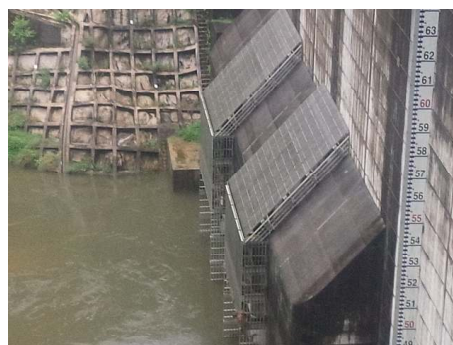
8月11日、島根県の益田川ダムを現地調査しました。ダムの高さは48mで、穴のサイズは高さ3.4m×幅4.45mが2つ、同じ高さに並んでいます。

益田川ダムは、「平成18年の運用開始から穴が流木などでふさがったことはない」との説明を聞いたことがあります。しかし、益田川ダムの上流には、本流(益田川)に嵯峨谷ダムが、支流(波田川)に笹倉ダムが、もう1つの支流(馬の谷川)に大峠ダムがあります。つまり、洪水時に益田川ダムに流れ込むはずの流木や土砂などは、ほとんどが上流にある3つのダムでカットされるわけです。

ところが、計画中の立野ダムの場合は、洪水時、阿蘇カルデラ内の全ての流木や岩石、火山灰(ヨナ)などが立野ダム地点に集中します。「立野ダムの穴がふさがる」という点で、益田川ダムの例は参考になりません。



益田川ダム本体の上流側



ダムの穴はさくで覆われている

●会計報告(2013年9月1日～2014年9月31日まで)

収入の部	金額	備考
繰越金	2,512	
年会費・カンパ	699,318	
合計	701,830	

支出の部	金額	備考
郵送費	170,574	会報発送、資料発送
事務用品費	42,489	紙代、封筒代、プリンターインク代
ブックレット217冊	149,990	流域首長、議員等に送付
カラーチラシ作製配布	304,347	A4版両面印刷1枚約2円
その他	26,480	会場費、印刷機使用料、横断幕作成
合計	693,880	

(収入) 701,830 - (支出) 693,880 = 7,950

●会員拡大にご協力ください！

最近の集会等にご参加いただいた皆様にも、会報8号とイベントのご案内などをお送りしました。「立野ダムによらない自然と生活を守る会」は、皆様方の年会費(一口1000円)とご寄付のみで運営しております。今回、2014年度分の会費振替用紙を同封させていただきました。

会の会計もほとんど底を尽きかけています。ご支援のほど、よろしく願い申し上げます。すでに今年の会費を振り込まれた方は、会員拡大にご協力いただけると幸いです。

阿蘇が世界ジオパークに認定



9月23日、阿蘇地域が世界ジオパークに認定されました。非常に嬉しいことですが、立野ダムのことを考えたら喜んでばかりもられません。

立野峡谷は、阿蘇ジオパークの重要なジオサイトの1つです。立野峡谷でカルデラが切れた原因は、断層や長年の浸食によるものですが、これまでに何度か溶岩で埋まったことがあり、その時にはカルデラ内に湖が形成されました。

立野峡谷の右岸は、阿蘇カルデラ内の火山から流下してきた立野溶岩で、冷却によって生じた角材状の割れ目（柱状節理）が多く見られます。特に、立野ダム本体予定地の右岸側は、溶岩が何層にも堆積し、阿蘇形成の歴史がここに凝縮されています。他にも国の天然記念物である北向谷原始林など、貴重な自然が多く存在する立野峡谷が、立野ダム建設により破壊されようとしているのです。

望月環境大臣は阿蘇が世界ジオパークに認定されたことについて「自然保護のため、国立公園制度は重要。阿蘇地域のジオパーク認定を機に取組みの連携を深めたい」と述べたと報道されました。それならば、現状変更行為が許されない阿蘇くじゅう国立公園の特別保護地区に造られようとしている立野ダムについて、環境省としても何らかの行動を起こすべきです。そのことを要望書にまとめ、10月14日に環境省九州地方環境事務所に提出しました。



環境省に要望書提出 2014.10.14



●「ダムより河川改修を」出版記念集会

立野ダムの問題点や、2012年7月の九州北部豪雨災害後の白川改修の現状、白川流域の災害対策の具体的提案をまとめたブックレット「ダムより河川改修を」（花伝社）を出版しました。

豪雨災害から丸2年となった7月12日に、熊本市の県民交流館バレアで出版記念集会を開催しました。約100名の参加で、会場はほぼ満席となりました。書店やインターネット通販サイトでご購入ください。パソコンやスマホをお持ちの方は、「ダムより河川改修を」で検索を！

編集後記 阿蘇カルデラは、太古の昔はカルデラ湖であったといわれます。なぜ立野峡谷でカルデラ（外輪山）が切れて白川となったかということ、外輪山の中で最も地盤が弱かったからだと考えられます。そのようなカルデラの切れ目にダムをつくるのは、専門家でなくとも危険を感じます。先日、御岳山が噴火したように、阿蘇の火山活動が急に活発になることも十分に考えられます。立野峡谷の右岸は、阿蘇カルデラ内の火山から流下してきた立野溶岩です。一方左岸は、右岸側とは全く違う先阿蘇火山岩類による地盤です。阿蘇の火山活動が活発になり、ダムの右岸と左岸で地盤が全く違う動きをした場合、ダム本体と周りの地盤の間にすき間が生じ、最悪の場合、ダムの崩壊へとつながります。地質面から考えても、立野ダムは流域に安全をもたらすどころか、危険をもたらすのです。(N.O.)